

1. 調査目的

児童が自身の学習状況について知ることにより、学習に対しての目標を持ち、その向上にむけて意欲を高める。また、学校や教育委員会は、児童の学力及び学習状況を調査し、その結果からそれまでに実施してきた取組みを検証することにより、教育活動の効果的な工夫改善を図る。

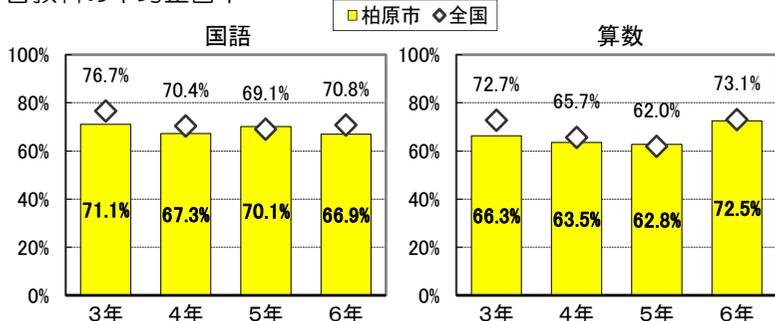
2. 調査対象学年

小学校：第3学年～第6学年 児童

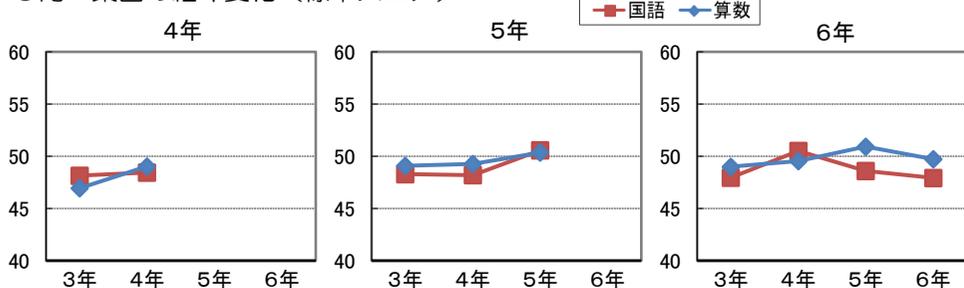
3. 調査内容

国語・算数・質問調査 (i-check)

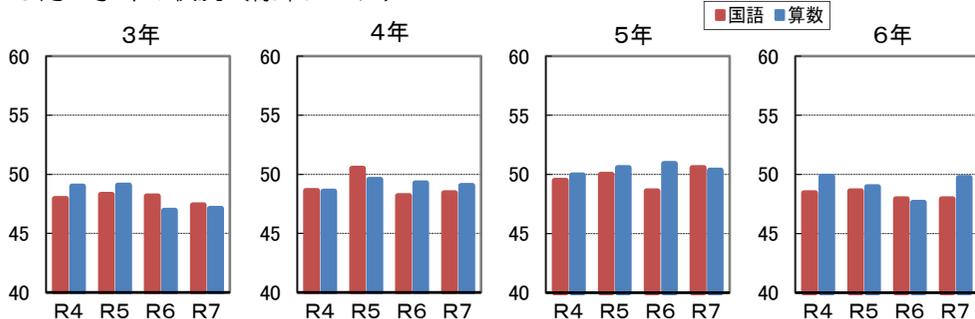
●各教科の平均正答率



●同一集団の経年変化 (標準スコア)



●同一学年の状況 (標準スコア)

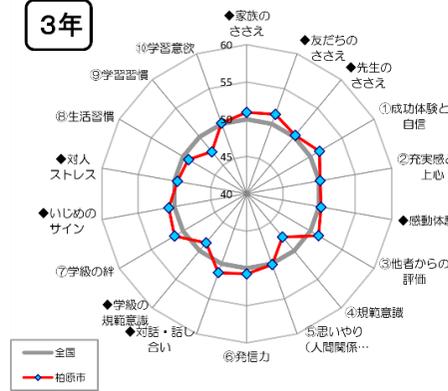


●質問調査 (i-check) より

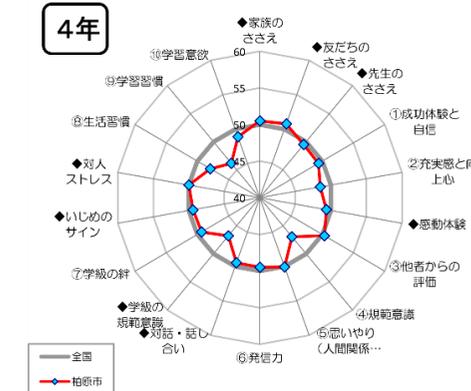
《強みや課題》

- 家族や友だちなど、周囲からの支えに対して肯定的である。
- 授業では対話的な学びを通して話し合いや発信の機会があり、その学びに肯定的である。
- 学級やクラスメイトとの関わり (雰囲気・絆・助け合い等) に対して肯定的である。
- ▼ 社会や学級での規範意識 (ルール・マナー・役割等) に課題がある。
- ▼ 学校の授業以外での学習や計画性等の学習習慣に課題がある。

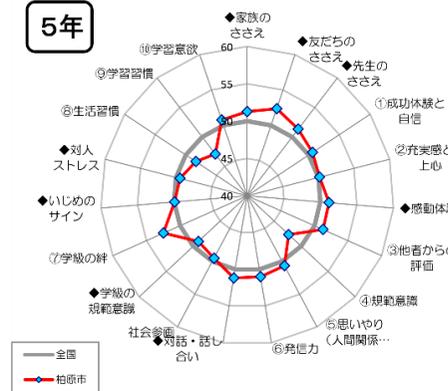
3年



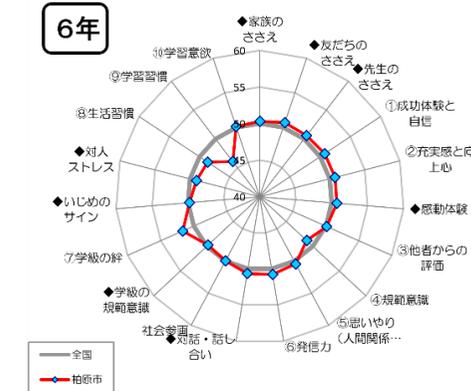
4年



5年



6年



《平均正答率との相関関係 (6年)》

以下の項目で、内容に肯定的に回答している児童ほど平均正答率が高い傾向がある。

自己肯定感：先生や友だちから頼りにされていると感じるか

ソーシャルスキル：他の人の発言や発表に対して、質問をしているか

生活習慣：朝食、メール・SNSの使用頻度、動画・ネット・ゲーム等の時間

学習習慣・意欲：授業以外での学習日数・時間、計画性、予習・復習、読書

詳細な結果を記載した参考資料は市HPに掲載しています。

[https://www.city.kashiwara.lg.jp/docs/2021110900019/file\\_contents/file\\_20263301182336\\_2.pdf](https://www.city.kashiwara.lg.jp/docs/2021110900019/file_contents/file_20263301182336_2.pdf)

